



植えよう増やそうブナの森

ブナを育成する会

活動を始めた経緯と活動内容

平成4年	連合鳥取の「連合森作り」 大山でブナを植える（購入ブナ）	連合
平成17年10月1日	設立 山への恩返しの思いから 「大山横手道上ブナを育成する会」 （ブナを育成する会）	ブナを育成す会
平成20年～	鳥取森林管理署との協定を結ぶ 「大山ふれあいの森」 39ha	
平成22年6月	とっとり県森林環境保全税を受ける	

活動内容

ブナの育成と植栽

ブナの里親

青少年を対象に森林と水の実践体験教育

それらを通じて自然保護の啓蒙

21年度のボランティア参加人数 1,050名

22年度は700名

23年度は950名

23年10月30日 体験林業の参加人数

	地ごしらえ 準備作業	10/30 体験林業
ブナを育成する会	149.5	38
(団体加入) 連合	27	82
ブナの里親		19
一般	3	16

179.5人工 153名

ブナを育成する会員数
個人 133人 団体 9

支援 団体

(大山国立公園協会)

(連合「愛のカンパ」)

とっとり県森林環境保全税

森林を守ろう!「山陰ネットワーク」

労力支援: 連合鳥取

全水道山陰支部

その他: 伯耆町

技術支援: 鳥取森林管理署

大山横手道上ブナを育成する会

「大山ふれあいの森」協定 39ha

参考

大山のブナ面積 1660ha

白神山地 13万ha

世界遺産 1万7千ha

頂上

南壁

人工林とブナの植林地

カラマツ人工林



大の沢

一の沢



二の沢

三の沢

海拔 900m

● ブナ植林 済

★ ブナ植林 実施

明治、大正、昭和の初期に
皆伐し ヒノキ・カラマツを植林

国立公園内特別地域
森林生態系保護地区(隣接)

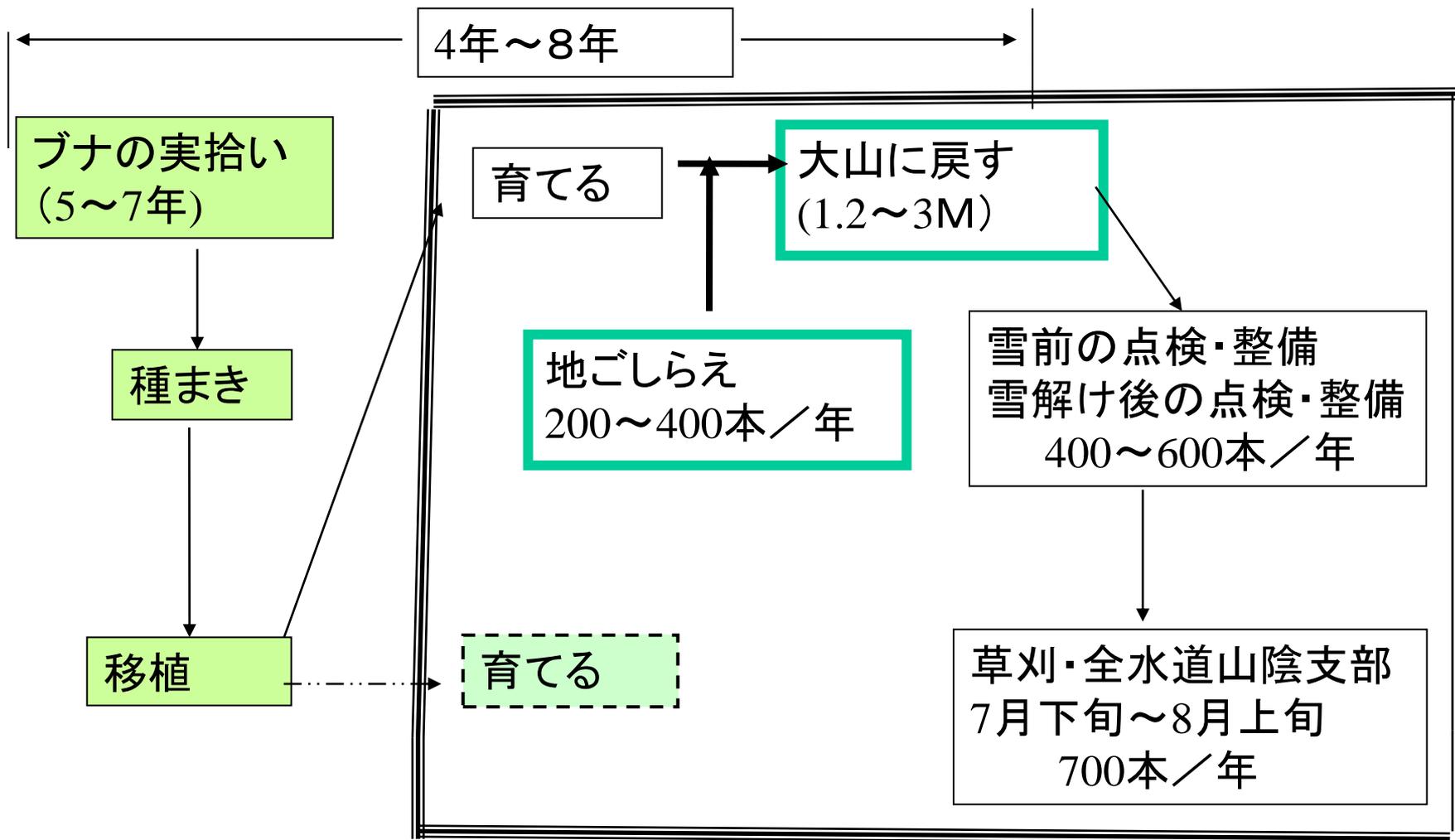
ブナの再生にも
厳しい制約

森を再生するための行動をいかに成功させたか I

- : 国立公園内……入山の制約
苗木の制約
作業方法の制約
- * ブナの種拾い……5~7年の周期
- * ブナは簡単に育たない……手間を要す
工夫と人海戦術

作業サイクル

作業日 3月10日～11月30日
(第2,4土曜日)



作業日 9,10月は地ごしらえのため別に計画する

ブナの実拾いと種蒔き

- ◎ 花が咲くには50年
- ◎ 実を着けるのに70年
- ◎ 実は5～7年に1回の豊作



1年後

ブナの子の移植作業



ブナの子たちは 育てにくい

霜にも草にも暑さにも、モグラにも弱い

草との戦い

モチベーションをどんどん下げる仕事

霜対策



モグラの戦い



最後が



冬はうさぎが
やってくる
ネットも張る

35cm埋め込み

暑さ対策



生育を早めるための芽摘み

害虫

コウモリ蛾の幼虫 被害が増加



カイガラムシ

消毒

▶ 金ブラシ





バナヤミズナラの
原生林だったでしょう

調査：切ってはいけ
ない木に
印付け後

金テコで支柱の穴作り
最もきつい作業

開墾開始

竹

プラポール

作業の軽減



通路作りと支柱の周りの刈り込み



支柱の周りの刈り込み

整備状況を見ながら
波状的に人をつぎ込みます。
やりすぎは厳禁

子供達を、家族連れ
をどこまで受け入れ
るか……？

植える前と後の仕事
量に格段の差があ
る



急きよ 応援要請 連合鳥取 五十嵐会長以下

苗木の準備 → 現地へ運搬



根切りと枝葉の剪定
土嚢袋で根の保護
土はほとんど落として

体験 植栽

こんな根で大丈夫か・・・？

経験農学？



森を再生するための行動をいかに成功させたか II

- * 「無償の奉仕」の理念

- * どんなにすばらしい目的・目標を掲げた活動でも。

楽しくないと人は集まらないし 続かない。

- * モチベーションを持続する努力を惜しまない。

体験林業

石が出てくれば、場所を変えます



ツルハシだけが頼り

子供達 震の中で



体験 植栽

最近、苗木の大きさ 2m以上あります



満足度アップ

参加者必ず1本植えて帰る

工夫: ツルハシ1本と同一ゼッケン番号を単位に。

体験 植栽

積雪2.5m と 斜面の雪ずれ
ブナが折れる……対策を

地ごしらえに刈り込みすぎると、冬が大変、通路も直登道は雪のダレ道。やりすぎは禁物。
冬には支柱とブナは結ばないこと
支柱は反発力の強いもの使用



クッションになる
枝木を置く

雪がずれないように
50cm以上残して切る

草刈りとギャップ作り

米子水道局 鳥取水道局 松江水道局
出雲水道局 呉 福山 山口
45～54人の大勢で参加
指導者：8人

事前にブナに標し付けを済ます

草刈・全水道山陰支部
7月下旬～8月上旬
700本／年の周りを

勉強会：本物のブナ見学会



地域との交流

170本



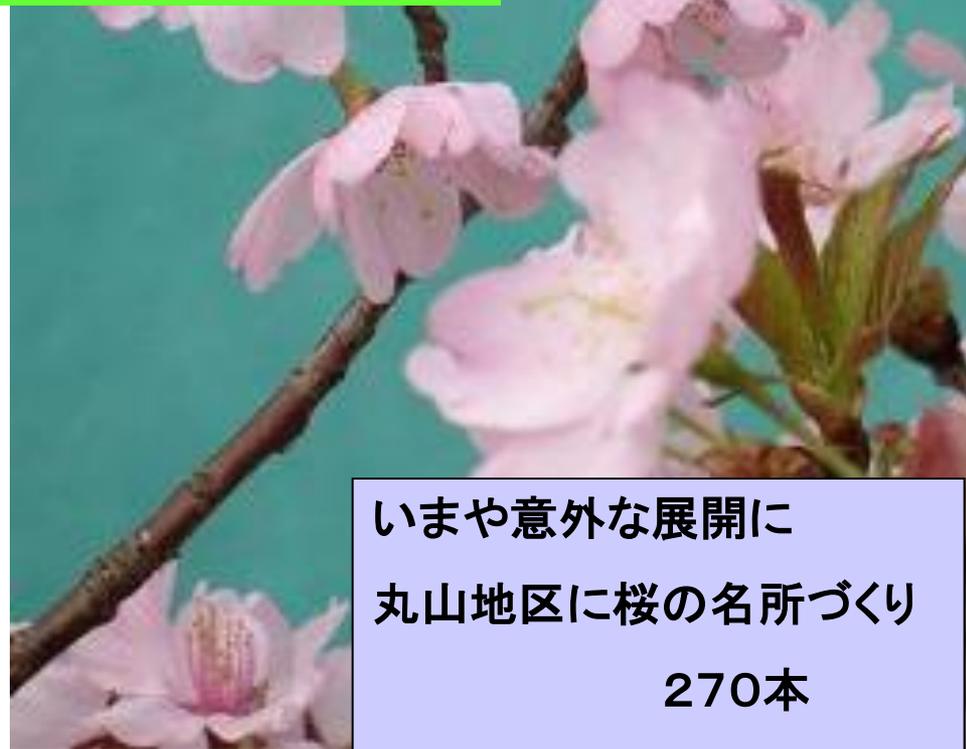
ドイツからの仲間も



今年 山に返しました

2007年よりオオヤマザクラに挑戦

地域との交流



いまや意外な展開に
丸山地区に桜の名所づくり
270本

榊水原の桜整備



植え方の講習

モチベーションの 持続に効果 作業後・シーズンオフ

チョイ悪のおじさん・ おばさんの勉強会



巨木 5.6 M

モチベーションの 持続に効果

森と水の分校

- 八郷小学校 3回シリーズ
- 少年非行防止キャンペーン事業
植えよう 増やそう ブナの森



* 腐葉土 1センチが100年を教え

森の中の明るさ、その周りの植物 生きものの観察と想像、腐葉土中の生物など。

聴診器を当てて、水の流れる音を聴きます。

寝そべり 自然との対話をたのしみます。

* 湧き出る水の川歩き体験

11度、19.4万t/日どこからかを考える
山を見、最後に木を植える所まで発展



ブナの森へ

増やさないと残らない、緑

今、私達の住む『緑の惑星・地球』は汚染、緑の破壊、人口の激増など重い重い病に侵されされつつあります。

この地球は、先祖から私達だけが『いただいたもの』ではなく『あずかっているもの』であり、大切に使い、いずれ子供や孫など、次の世代の子孫へお返ししなければなりません。

緑の惑星・地球号の乗組員の一人として、国や人類、や、宗教など既成の枠組みや概念を乗り越えて、地球のために、この手で、この体で、何かしなければならぬときです。

木を植えて、森を増やさないと・・・！緑の地球は救えないのです。

平成23年10月21日 30日
ブナの植林 体験林業で